

世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：道後温泉地区の魅力向上と賑わいづくりについて

平成27年9月2日（水曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。今日は道後商店街の皆さんとタウンミーティングをさせていただくにあたり、夏休みが終わった直後、9月に入ったばかりの平日の日中ということで、日程的にお忙しい方も多かったのではないかなと思います。このタウンミーティングの開催にあたりまして、道後商店街振興組合の理事長さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。このタウンミーティングは私が就任をさせていただいてから開始をさせていただいています。どういう理由だったかという、どっちが楽かという話をすれば、市役所で待っていて皆さんが来られるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。松山市には41地区ありますけれども、その地区ごとに課題があって魅力があると思います。その地区の課題を知っているのは地区にお住まいの皆さんで、その魅力を一番に感じているのもその地区の皆さんだと思います。ですので、我々から出向かせていただいて、魅力は伸ばす、課題は減らす。できることからすぐ市政に反映するタウンミーティングをやってまいりました。1期4年48カ月の任期ですので、1カ月に1地区の割合で回っていければと思っていたのですが、おかげさまで好評になりまして、1巡目の41地区は2年2カ月で終了しました。そして、1期目4年で41地区を2巡りさせていただきました。おかげさまで2期目に入らせていただいて、この地区別のタウンミーティングは重ねてこれからもやっていこう。そして新たな視点として例えば子育て世代の方々や、松山市は大学生・専門学校生が多いというのが特徴ですから、大学生に集まっていたら世代別のタウンミーティングもさせていただきました。また、これも予定になっているのですが、おじいちゃんおばあちゃんのシルバー世代の方々に集まっていたら世代別のタウンミーティングもしたいなと思っています。そして、地区別、世代別に加えまして、職業別のタウンミーティングということで、今日は商店街編の道後さんでさせていただくことになりました。松山市版のタウンミーティングの特徴は、やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないのが特徴です。悪い表現でガス抜きみたいな表現がありますが、このタウンミーティングはガス抜きのためにやっているのではなくて、魅力は伸ばす、課題は減らすためにやっているものです。ここでできる限り皆さんの質問にお答えをして帰ります。中には国と関係をする案件、県と関係をする案件、財政的な問題があるもの、こういったもの

はいい加減な返事をして帰るわけにはまいりませんので、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目処に必ず返事をさせていただくのが松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。皆さんと一緒に有意義な意見交換ができればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願ひします。それでは、それぞれ担当の課長が来ていますので自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんにちは。市民部長の唐崎と申します。このタウンミーティングを所管しています。課で申しますと、タウンミーティング課、市民参画まちづくり課、人権啓発課、市民相談課、市民課、支所を担当しています。どうぞよろしくお願ひいたします。

【産業経済部副部長】 産業経済部副部長の中島と申します。兼務で地域経済課の課長をしています。地域経済課の所管は、本日のテーマでございます商店街の担当をしています。そのほかに、企業誘致、中小企業支援、新産業創出などを担当しています。どうぞよろしくお願ひします。

【瀬戸内・松山観光戦略推進官】 いつもお世話になってます。産業経済部瀬戸内・松山観光戦略推進官の矢野でございます。私の担当は松山だけではなくて、お向かいの広島地域である広島市さん、廿日市市さん、呉市さんなどと一緒になって、瀬戸内地域そして松山道後へお客様にたくさん来ていただこうと取り組んでいます。本日はどうぞよろしくお願ひします。

【道後温泉活性化担当課長】 道後温泉活性化担当課長の中矢です。普段、皆さんとはお顔を常に合わせていますが、本日は野志市長が参加していて少し緊張をしています。このあと活性化の説明をさせていただきますが、しっかりと説明したいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【都市デザイン課長】 都市デザイン課長の坪内でございます。よろしくお願ひします。主な担当は景観まちづくりや再開発を担当しています。また、昨年度からは地元の方々をよくご存知だと思いますけど、アーバンデザインセンターの先生方と一緒にまちづくりを進めているところでございます。よろしくお願ひいたします。

【司会】 本日のテーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 今日のテーマですが、「道後温泉地区の魅力向上と賑わいづくり」についてご説明させていただきます。職業別のタウンミーティングを開催するにあたりまして、松山の地域経済活性化には商店街の方や観光に携わる方からご意見をお聞きしたいと考えました。商店街の方は個人消費のことをよくご存知でしょうし、観光は松山の主要産業の1つになります。そこで、市内の商店街の中で、観光、小売・飲食などの両面をお持ちの道後商店街の皆さんに声をかけさせていただきました。まず、現状からまい

ります。観光業を見ますと、昨年の観光客の推定数は2年連続の増加で約570万人です。道後温泉街の宿泊者数は、過去10年で最高の88万7千人。外国人観光客の数は2年連続で過去最高の8万8,700人。修学旅行の誘致実績は、年度の集計で過去最高の62校、約1万人の修学旅行生にお越しただけだったということで、数字的には良い結果を残せたのではないかなと思っています。修学旅行の誘致や「瀬戸内・松山構想」を中核とした新たな旅行商品や、広域周辺ルートの開発、広域で官と民が連携をすること、魅力あるイベントや地域のおもてなし力の向上に精力的に取り組んでまいりました。大手旅行会社や交通機関が展開する全国からの集中送客キャンペーンの誘致に成功したこと、台北市との交流を進めたこと、また、「道後オンセナート2014」や「瀬戸内しまのわ2014」といったイベントが注目を集めたことなど、これまで地道に取り組んできたことが少しずつ実を付けてきたと思います。また、国が勧める訪日旅行商談会で、京都・広島・松山を巡るコースが「新ゴールデンルート」として提案されたこと、道後温泉が「おんな一人旅に人気の温泉地ランキング」や「憧れの温泉地ランキング（関西・中国・四国編）」で1位に選ばれたことなども追い風になったと思います。さらにうれしいニュースがありました。来年1月ですが、「坊っちゃん」を原作とした新春スペシャルドラマが全国放送されることが先日発表されました。主役の坊っちゃん役が、アイドルグループ「嵐」の二宮和也さんですので、若い方にも注目していただけるんじゃないかなと思います。道後温泉本館など漱石ゆかりの地でロケが行われる予定ですので、この道後も賑わうのではないかなと楽しみにしています。また、来年以降に目を向けますと平成29年に開催される「えひめ国体」と「全国障害者スポーツ大会」があります。来年の平成28年は国体の前の年ですが、全国規模のリハーサル大会があります。松山に、道後にも全国からたくさんの方がお越しただけるとと思いますので、十分な準備と皆さんと一緒におもてなしの心でお迎えをしたいと思っています。そのためにも現在、椿の湯別館の増設工事に取り組んでいるところです。また、国体の終了後は、道後温泉本館の保存修復工事や増加している海外からの観光客を東京オリンピックも見据えていかに取り込むかなど、課題は山積していると思っています。今日はそうした将来を見据えて、行政と協力して内容を充実したいとか、ここはもっと行政の力がほしいといったお話を聞かせていただきながら意見交換をさせていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 続きまして、道後温泉活性化に向けた取り組みについて道後温

泉活性化中矢担当課長からご説明いたします。

【道後温泉活性化担当課長】 道後温泉活性化担当の中矢でございます。道後の活性化の取り組みについてご説明をいたします。活性化については平成24年から取り組みを進めておりまして、地元ではワークショップの開催、地区懇談会での意見交換、さらには外部委員「道後温泉活性化計画審議会」という組織を設け、その意見を聞きながら順次取りまとめてきました。その中で、道後の活性化は3本柱で推進いたします。まず1つ目は「椿の湯の施設整備事業」です。本来、道後温泉は温泉の品質が最大の強みです。源泉かけ流し、無加温無加水の魅力を高め、温泉力で全国と勝負をしていきます。本館、そして椿の湯は後で説明をしますが、地元から提案されている歴史の湯構想といった考え方を踏まえ、魅力ある温泉施設にしていきます。次に、2つ目の「活性化まちづくりの推進」です。このまちづくりが一番難しいです。多くの方はまちの利用や経済活動をしています。そういった中で、関係者との意見の調整や利害関係者の協力を得るには、かなりの時間がかかります。しかし、この事業は実施すると大きな効果が生まれます。道後でこれまでの約10年間の取り組みを振り返りますと、道後温泉駅前道路の車の渋滞がひどかった。それを解消して広場化をして賑わい広場をつくった。さらには本館前の道路渋滞を迂回させて解消し本館の周りを広場化する。そして、県道を拡幅して通りやすく回遊しやすい歩道をつくり、歩道の下に電線類を埋めて景観整備をした。さらに、広場や道路に面している民間の方にも協力をいただいて景観整備をする。こういうことで道後のまちはここ10数年で大きく変わり、結果として出てきています。平成19年には、ミシュランガイドブックで最高位の評価をいただいたということです。さらには「もう一度行ってみたい温泉地ランキング」第6位、「心潤うおんな一人旅に人気の温泉地ランキング」では第1位です。この理由は、「まちの雰囲気がいい」「景観がいい」というのが大きな理由でした。こういったまちづくりをしたことによる効果が表れているわけです。さらに、ニューヨークタイムズに「2015年に行くべき52箇所」の中に日本では唯一四国が選ばれ、そして道後温泉が紹介されたということ。一番難しい事業ですが、全国の温泉地でもなかなかできていません。道後はそういったまちづくりにしっかりと取り組んで推進するというのが2つ目です。3つ目の柱は「道後温泉の全国発信」です。今日は情報化社会で、毎日、観光PRが発信されています。道後といえども何もしなければやはり認知度は低下しますし、新鮮度も落ちていきます。しっかりと全国に発信していくという、この3つの柱を掲げました。

【市長】 では、早速皆さんと意見交換に入っていきたいと思えます。

【男性】 私、道後のまちに関わって約10年過ぎました。道後のまちの自己資金について以前から考えています。個人もそうでしょうが、自己資金があつて事業計画があつて銀行から融資がおりてくる。松山市さんは本当に丁寧に、次々に新しい企画と実践を重ねられてとても感謝をしているのですが、将来にわたって私たちのお金はいったいどうすればいいのかというのをずっと考えてきました。2年ほど前に、伊予銀行さんにソリューション部という部署がございまして、担当の人がお見えになられてお願いをしました。というのが、個人の寄附は非常に負担になります。例えば、いい例が積立金みたいなものですが、個人もしくは法人が将来の地域振興といえますか、道後のまちの事業をするための積立金が、例えば10年間、経費で落ちるということになると賛同者が多くなると思います。個人で寄附をしたとしても1回や2回で、継続ということが非常に難しくなります。例えば、現在、政府が行っている地方創生で、観光特区の1つとしてそういうことが経費として認められると、私の念願するこのまちの自己資金が、大きなお金ではなくても小さなものの集積によって、将来、新しい動きのもとになるように思います。市の皆さんに、そういうことができるのかできないのかをお調べいただければ幸いです。

【市長】 寄附の難しさはいろいろと松山市でも事象がありまして感じる場所ですが、どういう目的のために集めますとするならば、必ずその目的のために使わなければいけないというのが寄附の難しさです。例えば、「こういう建物をつくろうと思いますので、寄附を募ります」とすると、「建物ができませんでした、寄附をお返しします」というのが非常に難しいです。ですので、寄附には良さもありますが、そういうところに難しさがあります。今、特区というお話がありましたが、地方創生と特に今年よく聞かれると思いますが、今、松山市役所でも地方創生のための策をいろいろとまとめているところです。地方らしさを生かした取り組みをすると、国が地方創生という部門のお金を回してくれるというかたちです。ですから、我々が考えるべきは松山の中でも道後はどういうところなのか、その特徴を生かして市だけがやるのではありません。市と市民の皆さん、道後の皆さんと一緒に、どういう道後らしい取り組みができるのかを政策として打ち出すことができると、国も「なるほど、これは道後さんらしい取り組みだね」ということで、地方創生のお金が回ってくればと考えています。あと1つだけ言いますけれども、去年は「道後オンセナート」をやりました。芸術で魅力アップできるということがわかりましたので、今年予算を半分に絞らせていただいていますけれども「道後アート」を今

年やっています。おかげさまで、去年の道後オンセナートの7月の人数よりも多くの方が来てくれているありがたい状況です。そして、平成29年は愛媛国体ですので、来年はプレでお客さんが来られます。しばらくはそういうこともあるのでいい状態かなと思っているのですが、今後、10年後、30年後、50年後を見越して、我々の子どもや孫世代にどういう道後を残せるかというのを皆さんと一緒に考えてかたちをつくっていききたいなと思っています。

【男性】 数ある商店街で、最初に道後をご指名いただきどうもありがとうございます。道後は、今、期待と不安の2つが渦巻いております。期待は椿の湯の隣に日本を代表する新湯ができる。道後温泉駅と道後温泉本館を結ぶ中間ところに、そういう名物ができることは我々にとって非常にありがたく大いに期待しています。その反面、本館改修がたちまち国体終了後に始まるからお聞きしております。それで、我々も商いが本当にできるかどうか、我々の自慢の神の湯の前に足場が組まれて、天幕が張られ、クレーン車を1台置くと、まちの様子ががらっと変わります。そういう大きな不安が2つ渦巻いておりますので、このあたりのことをどのようにすれば問題解決できるかということが大きな関心事です。これについて中矢課長さんからご説明いただいたらありがたいと思います。

【市長】 新設する建物や椿の湯全体の完成予想図とか、道後温泉活性化計画のことについて説明させていただくといいかなと思いますので、中矢課長お願いします。

【道後温泉活性化担当課長】 椿の湯は現在の敷地の約2倍になります。建物は2階建で飛鳥時代という地元の提案の湯をつくるということで、1階部分に露天風呂をはじめ男女の浴室、2階部分の大広間は道後温泉本館の神の湯と同じ広さです。個室も5部屋整備します。さらには又神殿のお風呂を再現した浴室を2階に設けます。そのようなかたちで椿の湯を整備する予定でございます。この新湯は、本館とほぼ同じ延べ床面積が1,600平米になります。本館は周りが広場で360度から本館を眺めることができるのですが、今度の椿の湯は建物が周りにあって中に広場があるという、まさに本館と椿の湯が対比されたような建物構造になっています。これが特徴かと思います。それと、イベント等が展開できる中庭の広場、さらには道路も現在の4メートルから約7.5メートルぐらいに広がりますので、非常に眺望が開けるのではないかと思います。一方、まちづくりですが、本館に過度に頼った観光地では本館改修時に影響が出てきます。道後は日本最古の歴史というものが最大の強みでございますので、今回の

まちづくりでは、椿の湯エリア、本館・冠山エリア、上人坂エリアといった、まち全体の地域資源を活用することによって、道後の底力を示すことで観光客の方に来ていただく。この新湯には本館の工事期間においてもたくさんの方に来ていただきたいと思っています。当然、本館の工事については、それなりの見学ができるような対策を検討していきたいと思っています。

【市長】 また、こういうことを知りたいということがありましたら遠慮なく聞いていただけたらと思います。道後温泉本館は国の重要文化財です。耐震不足で大きな地震が起こって壊れてはいけません。国の重要文化財を持っている松山市の市長として、どこかでこの耐震化はしなければならない。地震が起こって壊れてしまったのでは復元するとなるとかなりの時間もかかるでしょうし、この道後温泉本館を後世に良い状態で引き継いでいかなければならない。もう1つは本館の工事に伴う地域経済への影響を避けたいというのがあります。今のかたちでは、平成29年に開催される愛媛国体の終了後に着手できるように、現在、工事の計画や期間などについて検討しているところです。私としてはできるだけ地元に影響が少ない工事にしたいし工事の期間にしたい。地元の関係者などと協議を重ねながら、道後温泉活性化計画審議会などから答申が出ますので、この答申を待ちたいと思っています。また、自分が生まれ育った松山の道後温泉本館に愛着がありますし、皆さんが「お客さん来なくなったよね」とつらい顔を見るのは嫌ですから、できる限り地域経済への悪い影響が出ないように図っていきたくと思っています。今日、観光・国際交流課の織田課長はこれからどう新しい椿の湯をPRしていくかを協議するために県外へ出張していますが、どちらかというともPRは自分の持ち味だと思っています。今年の11月には大阪で旅行会社の商品をつくる方々を集めてのプレゼンテーションをする機会がありますので、新しい椿の湯がこうなるんですよ、いつできますよ、中はこういう特徴があるんですよというのを早速アピールしていきたいと思っています。道後は色々なことをしてこれからもやっていくよという情報発信にも努めていきたいと思っています。

【男性】 賑わいづくりについてですが、皆さんにお配りしましたうちわにある「真暫寝哉（ましましいねたるかも）」というイベントですけれども、道後地区というのは一遍上人生誕の地でありまして、時宗・踊念仏というのが盆踊りのルーツと言われています。タイトルが「真暫寝哉」という難しい漢字ですけれども、神話に出てくる少彦名命（すくなひこなのみこと）が死にかけていたときに、大国主命（おおくにぬしのみこと）が道後

のお湯についたら、「真暫寝哉：暫く昼寝をしたようだ」と言って、生き帰ったという伝説があります。この道後を盆踊りの聖地としてPRをしていこうということでイベントを開催しております。せっかくなので、松山市にも協力をいただいて、PRをして盛り上げていきたいと思っています。

【市長】 ありがとうございます。皆さんが動いてくださっているのはよく存じ上げています。聞かれたことがある方もいらっしゃると思いますが、道後の方が中心商店街の方や三津の方とも一緒になってやってくださっているのは非常にありがたいと思います。私が就任したときには、各地区が分かれているところがあったんですよね。道後は道後、中心商店街は中心商店街、三津は三津みたいなところがあって連携をしていただければいいのにと思っていたのですが、皆さん方が動いてくれて連携してくれているのは非常にありがたいと思います。私が全国に道後のアピールをさせていただくときに思うのは、絶対にチームで動かないと負けます。松山の間人がチーム松山として動くことができれば強いけれども、野球に例えるとピッチャーとキャッチャーの仲が悪いチームは勝てるわけがないですよ。サッカーでいえば守備陣と攻撃陣の仲が悪いところだったら勝てるわけがないですよ。同じ松山ですから松山の間人が一緒になって動くと1+1が3になり4になり5になるの効果をもたらすと思います。私もいいなと思うのは、道後温泉本館の振鷺閣に太鼓がありますから、あそこで太鼓を鳴らして道後温泉本館で皆さんが周辺を回るような盆踊りができればなと思っていますので、できる限り協力をさせてもらったらと思っています。これまで本当に皆さん方がいい動きをしてくださっているなと思っています。ありがとうございます。

【男性】 椿の湯に第2の湯ができるのは僕らからするとすごくありがたいですし、今後の賑わいとか魅力向上に、お客様に対してもすごくいいと思います。道後温泉本館の改修期間が7年から10年ということですが、1年でも僕らのような道後で商売をしている者はすごく怖いことで、それが1年だけでなく7年から10年になるというのが、僕らが生活をしていけるのか、道後の土地を売ってどこかに住んだほうがいいのかというぐらい本当に死活問題になっている状態です。僕らは青年部というのを立ち上げていつも話しているのですが、改修工期が変わらないのだったらピンチをチャンスに変えようと考えています。僕らが店頭で立ってお客さんの声を聞いていたりすると、「道後温泉は国体以降に入れなくなるのでしょ」という声がすごく多くて、その周知が全国的にできていないのかなと思っています。観光客の方は道後温泉が改修になると入れなくなって、これで

見納めかなと皆さんは心配をされています。私らが説明をして来てもらったお客さんの不安を軽減しているかたちになっているのですけれども、そういう周知の部分を市に動いてもらいたいなと思うのと、道後温泉が改修に入ると幕を張ったりとかお客様が入れなくなったりとかの問題もあると思うので、今まで120年続いてきた道後温泉が見られなくなる期間は今の時期でしかないですよというのを、逆にピンチをチャンスとして打ち出して、今はネットワークが整備されているのでライブカメラで皆さんに今の道後温泉はこんな状態ですとか、今回はここに幕を張りますとか、最後の1年は正面に幕を張りますけれども後ろは見れますとか、そういう打ち出し方をするともっとお客さんが楽しんで来てもらえるのかなと思います。

【道後温泉活性化担当課長】 工事につきましては検討に入っています。平成18年の基本構想の検討の中で、部分閉館で11年、完全閉館で8年という目安が出ておりましたが、今は事業のための詳細な検討に入っています。そうすることで、どこの工事をどうするかたちでしていくのかということ積み上げの中で工期の短縮を最優先に考えています。そのあたりは今年度中に皆さんとも協議をしながら進めていきたいと思います。見学につきましても議会で市長から報告をさせていただいていますが、工事期間を商品化することを含めて検討したいと思います。

【市長】 工事期間中とってうつむいてしまうよりも、工事期間中だからこそできることがあるんじゃないかと思います。姫路城に行ってきましたが、見せる工事をやっていました。オープンキッチンならぬオープン工事現場といいましょうか、やはり方向性としては工事期間中だからこそ見せられるものがあると思いますね。これは見せられるかどうかはわかりませんが、坂本又八郎と書いた棟札が道後温泉本館の3階にありますね。普段は見ることはできませんけれども、そういうのを工事期間中だから見せることができるんじゃないか。道後温泉本館は平地に建っている建物ですが、冠山には空の散歩道がありますので、あそこから工事を見せる方法もあるんじゃないかというアイデアも生まれますよね。もう少しすれば工事がどれぐらいの期間かかるのかとか、どういう工事をするのかということが出てくると思いますので、いつぐらいに工事に入りますというのを皆さんにお伝えできると思います。その段階になったら、きちんとすべて入れなくなるわけではないのですよというアピールをしていきたいと思いますし、皆さんが言っていただくのは大事なことだと思いますので言っていただいたらと思います。引き続き、上人坂のことをもう少し詳しく説明をお願いします。

【道後温泉活性化担当課長】 道後で歴史があるといいますか、雰囲気のあるまちが上人坂でございます。全国的に有名な一遍上人の生誕のお寺でございますので、ここを道後で活用しない手はないということです。門前町として上人坂を再生していくことで道後に回遊性が生まれるのではないかと思います。駅前と商店街と本館のゴールデンルートだけでは道後の奥行というのが出てきません。鎌倉時代の一遍上人、さらにはその後の江戸期のものもありますし、日本最古の温泉地というものを全国に売り出していくのが一番の強みだと思いますので、上人坂の門前町の再生は道後の次の魅力を高める重要なポイントではないかなと思います。

【市長】 お配りしている資料を出していただけたらと思います。「宝厳寺再建（民間）」、「周辺道路整備」、「電線類地中化整備」、「沿道建物ファサード整備」とあるので、皆さんにわかりやすく上人坂がどうなっていくのかをイメージできるように補足説明していただけますか。

【道後温泉活性化担当課長】 上人坂にある坂は市道ですので、宝厳寺に向かう坂にふさわしい道に整備しようということで歩道を拡幅して整備する計画にしています。そして、景観整備とあわせながら沿道の土地が今、宝厳寺さんが建物を除去されて新しい門前町をつくろうということで進められています。これは民間開発の事業です。この民間開発の事業が誘発できるような、また、道路整備の相乗効果があるまちをつくり、宝厳寺そして伊佐爾波神社の階段も含めて回遊できる観光地にしていくという考え方をしています。タイムスケジュール的には道路整備と民間の開発事業が一体的になって進むような、宝厳寺さんは来年の5月に落慶法要が予定されていますが、それにあわせたかたちで道路整備を順次進めていけたらと思っています。それと沿道の民間開発をするときに、それぞればらばらな建物を建てるのではなく、門前町にふさわしい景観にさせていただくためのファサード整備を協議していくということでございます。電線も道路の中に埋めて、ここからの眺望は松山城も見える非常にすばらしい景観ですので、しっかりと景観整備を進めていくように考えています。

【市長】 上人坂のところで宝厳寺さんの再建（民間）ということがありました。周辺道路整備はこうなっていくですよ。電線類地中化整備をしていきますよ。沿道建物ファサード整備のことについてお話をいたしました。椿の湯周辺エリアも先ほどご紹介しましたが、周辺道路、景観整備、電線類地中化整備、沿道建物ファサード整備など、道後のまちがいい感じに大きく変わっていくのだなあというのがおわかりいただけたと思います。では、本館・冠山周辺エリアの「本館を望む展望スポット整備（足湯整備）」と「冠山アクセス道整備」を説明してもらえますか。

【道後温泉活性化担当課長】 本館・冠山ですが、本館の修復をどういったかたちとするのかを、今、検討しています。先ほど、市長からも申しましたように、冠山の空の散歩道から見える本館は誰が見てもすばらしい景観ですので、やはりここを生かす。そして、姫路城のように本館を足場で囲むところに見学施設をつくって、直接そういったものを見学する仕方もあります。こういったものを本館の保存修復の方法とあわせて考えていきたいと思っています。冠山には100台停められる駐車場があります。途中からは階段で北側から下りられるのですが、途中までは駐車場の車路を歩いています。それが、空の散歩道のほうから階段で下りることができないのか、パンフレットに階段のイメージを掲載していますが、歩行者のアクセスを改善するという事業です。このような本館の工事の前にできること、そして、本館の工事に対応をするものなど本館工事計画の中で検討をしておりますので、これにつきましては今後に具体的なお話をさせていただこうと思います。

【市長】 あと、1つだけ。その他のところですか。「宿泊施設等耐震改修に伴う整備、オープンスペースの整備」「フリッジパーキング等整備」について説明をお願いします。

【道後温泉活性化担当課長】 道後で5千平米以上の大きな建物は、耐震の関係で補強もしくは建て替えをされます。大きなホテルや旅館が耐震化をされると景観が大きく変わるのではないかと思います。そのときに緑を植えていただくとかオープン空間を景観のよいものにしていただくことの取り組みが「宿泊施設等耐震改修に伴う整備」です。それと「フリッジパーキング等整備」ですが、道後というのは本館を中心に非常に混み合います。できるだけ道後温泉周辺に駐車場を確保して、歩いて道後の街並みに入ってくるができるように、民間の開発を誘導をしながら駐車場を整備していくということです。現在も道後は色んなお祭りやイベントや行事があります。ゴールデンウィークにも非常に混雑します。そういったときに、アクセスしやすい駐車場を民間と一緒につくっていったらということで、その他に挙げています。

【市長】 このように色んな方面からできるだけお客様を落とさないようにやっていきたいと思っています。私が思うのはこれから10年先、30年先、50年先の道後は、愛媛の観光にとっても絶対大事な場所であり続けるので、皆さんとこの機会と一緒に本気で道後を10年、30年、50年、100年持つところにしていきたいんです。今、こういう事業を考えていますというのをご紹介させていただきましたが、よくある例えで泳いでいるときに底が見えないと気持ち悪いですよね。でも、泳いでいる

ときに足が着くと、これだけの位置にあるということがわかり安心します。そういうことから、あえてこれだけのお金をかけているというのは好きではないのですが、これだけ投入していきますというのをご紹介させていただきます。議会でこれまでも出ている案件なので初耳ではないとは思いますが、「道後オンセナート」は平成26年は1億2千万円の予算を投入してさせていただきました。これは市が1億円、協賛金が2千万円です。おかげさまで今年も去年もお客様は増えています。「道後アート2015」の今年の予算額は約6千5百万円、市が6千万円、協賛金を5百万円いただいて投入させていただきます。そして椿の湯の整備ですが、国にも応援をしてもらって新築に21億円、既存の施設の改修が2億5千万円、合計23億4千万円のお金をかけて椿の湯を改修させていただきます。市民の代表である議会にも承認をいただいてというかたちにはなるのですが、これだけしっかりとやっていこうと思っています。皆さんは受け止めていただいていると思いますが、本当にここが大きな分岐点だということと一緒にやっていけたらと思います。私が勝手にいいなと思ったことをご紹介させていただきます。「そういうことを道後でしたいんだったらこういうことが必要だ」ということがありましたら、遠慮なくおっしゃってください。そして、「もういっぺんプロジェクト」については、本当によくやっていただいたと思います。火事の後にお見舞いへ行かせていただいて、和尚さんはご高齢でいらっしゃいましたが、「もう1回やります。戻します」とおっしゃられていて亡くなられましたが、私も一遍上人さんが好きですし河野氏も好きですし、そういう縁のお寺ですし、「ああ、燃えてしまったね」じゃなくて立ち上がられたことがすばらしいと思います。ぜひともやりたいのが、この上人坂、冠山、椿の湯といろいろ出ていますが、滞在性を高めること、回遊性を高めること、道後をずっと歩いてもらいましょうという取り組みです。歩いてもらって時間を費やしてもらったら、お店で休憩してもらってお金を落としてくださることにもなりますから経済力にもつながります。「これだけ回る場所があるのだったら、もう1泊しよう」と、1泊じゃなくて2泊3泊にもつながってきますので、皆さんと一緒に滞在性や回遊性を高めていきたいと思います。例えば、上人坂に工夫をして外湯を置くことができたらと思います。城崎に出張で行かせていただいたのですが、城崎に行ったことある方は手を挙げていただけますか。3分の1ぐらいですね。7つの外湯めぐりがあるのですが、1日外湯めぐり券で1,200円です。1,200円払っておいたら1カ所だけでなく2カ所3カ所回りたくなるいいお金の設定にしています。浴衣で歩いている女の子が多かったですね。浴衣だと視覚的にまちに潤いを与えて

くれるんですね。浴衣の足元は運動靴でなくて下駄ばきですね。下駄ばきのカラコカラコロという音が温泉街に響いていいんですよ。道後で本館や椿の湯がある商店街を浴衣で下駄ばきで歩いてもらったらいい風情が出ると思いますね。また、城崎さんうまいことやっているなど思ったのは、7つの外湯めぐりでお風呂に入って出てきたら暑いですよ。ビールも飲みたくなる、女の子はアイスクリームとかスイーツジェラートも欲しくなる。ちょうど目の前ぐらいにスイーツとか冷たいものがあるんですよ。そういう取り組みもできるんだなあ。また、今回携わってくれることになりました東京大学名誉教授の内藤廣先生が椿の湯を監修してくださいますが、先生が手掛けた総湯（共同浴場）を復元した石川県の山代温泉にも行かせていただきました。内藤廣先生はこういうかたちでされるんだなあ、木を上手に使われるんだなあとすごく体感してきました。そして、宮大工である坂本又八郎さんが次に移られた熊本の山鹿も行ってきましたけども、山鹿の温泉がどのようにできたかという資料館がとても参考になりました。今、道後にはいっぱい資料がありますが、その資料は皆さんにたくさん見られている状況かという見られてはいないです。山鹿に行って参考になりましたので、この道後がどのようにしてできていったのか、その資料を見ていただくというのでも1つ滞在性を高める、また道後への愛着を高める方法かなと思います。やる方法はいろいろある。それは行政でやってくださいではなくて、皆さんと一緒にやっていくことによって地に足が着いたまちづくりができるのじゃないかなと思っていますので、ぜひとも皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【男性】 市長がおっしゃった道後のまちの滞在性を高めて回遊性を高めるとするのは本当に大事だと思っていて、それについての細々したプランですが、例えば先ほどの整備エリアの区域がありますよね。電線の地中化をもう少しエリア内のすべての区域に広げるとか、にきたつの路も地中化にするとか。椿の湯の前の道の向こうに駐車場ができたとして、そこから道後温泉の本館にまっすぐ向かって歩いてくるときにアーケードがあって道後温泉の本館が見えないのですが、アーケードを上手く改造するなど工夫して道後温泉の本館がパッと目に入ったらすごく雰囲気が出るんですね。そういった風景、全体の景観をより高めていく。あと、先ほど椿の湯の説明がありましたが、道後の周辺には緑がありますが中心の部分に緑が少ないので、広場をつくるのに緑や大きなシンボルツリー的な樹木などがあつたらすごく安らぐと思います。あと、駅前の足湯は本当に多くの方が利用されていて、観光客だけでなく松山市内の方とか近隣の方も利用されているので、そういった方にたくさん来ていただくためにも、ぜひ

足湯を椿の湯や上人坂につくっていただきたいなと思いました。

【市長】 大きく分けて5個ぐらいの意見をいただきました。電線の地中化のエリアについては。

【都市デザイン課長】 いろいろと地中化は進めています。道後温泉の本館周辺はすでに地中化されています。地中化は松山市だけでなく四国電力さんやN T Tさんが重要なポイントを持っていまして、そういった方々や色んな行政機関が集まって、松山市内一円をどこからどのようにしていくか計画的に進めているところです。どういった観点から進めているかという、1つは電力の需要で、人が多いところにまずは地中化をしていく。計画的に進めているところではありますが、こういった道後温泉の周辺が今後どのようにっていくかについては持ち帰らせていただいて改めて回答させていただきます。

【市長】 全体景観をよくしていくことについては。

【都市デザイン課長】 都市デザイン課で景観まちづくりをやっています。道後本館周辺、全体的に平成22年に景観計画を策定させていただいて、現在も建物の建て替えや改修は色合いであるとか雰囲気合うようなかたちで進めさせていただいています。今後もインフラ整備と同時にファサード整備もそうですけど、民間さんの建物も含めて一緒になって、どのようにしたら一番効果的なまちになるかということを引き続き検討させていただいたらと思います。

【男性】 路面についてですけど、椿の湯の前の道をにきたつの路みたいにきれいな舗装を考えてほしいなということと、にきたつの路の石畳ですけど常時割れている状態で路面もでこぼこしています。そこはぜひ改善策を考えていただいたらと思います。

【市長】 路面、椿の湯の前はどのように考えていますか。

【道後温泉活性化担当課長】 椿の湯につきまして、にきたつの路のような路面のグレードアップを考えています。椿の湯の周りについても電線類は椿の湯の敷地内に地中化をしまして、架線等も中に入れられるような対応をしたいと思っています。

【市長】 にきたつの路の石畳が割れていることについては。

【道後温泉活性化担当課長】 道路管理課の所管になります。私も通って時々割れているのを見かけますので、路面調査をして対処していきたいと思っていますので持ち帰らせていただきます。

【市長】 道路管理課に連絡しておきます。水と緑のことについては。

【道後温泉活性化担当課長】 先ほどのパンフレットの椿の湯のエリアのところを見ていただいたらと思います。緑が椿の湯の中にありますけど、そ

のようにたくさん配置しようと思っています。それと、中庭のちょっと上のところにある緑は源泉があるところです。源泉のところにも足湯と緑を配置します。聖徳太子が詠んだ碑文に「椿が互いに枝をさし交えて生い茂り、あたかも寿国のようなであった」という表現がございます。そういった椿の森をつくっていきたいと思っています。

【市長】 2年前ぐらいでしょうか、松山市で椿サミットが行われました。松山市の市の花は椿ですね。伊豆大島は椿で有名ですが、全国で市の花・町の花が椿であるというところが集まる全国椿サミットというのがあります。そこで資生堂さんと協定を結ばせていただきました。道後温泉のテーマは美と健康です。資生堂さんも美と健康ですよ。資生堂さんの商品で「TSUBAKI」があります。不思議なご縁ですよ。ね。「マドンナ」というフレーズもあるんですね。いろいろ調べていくとつながりがあるんです。そこで担当職員に言いまして、松山市が椿の湯の改修をする中で資生堂さんの力をお借りしたいとお願いをしたら資生堂さんと協定を結べたんですよ。椿の湯の改修にあわせてこれまでいろいろ種蒔してきましたので、資生堂さんの力も借りながら、また、ほかのところの力も借りながら椿の湯の改修をしていこうと思っています。あと、安らぐことについてもありましたけど、安らぐとか椿の湯に足湯を設けるのかについてお願いします。

【道後温泉活性化担当課長】 椿の湯の中庭に源泉があります。その源泉のふもとに足湯を設けて「湯の川」という表現で、飛鳥時代の露天というイメージを醸し出したいと計画をしています。休憩スポットですが、椿の湯の周りにベンチを置きまして、商店街の中間でございますから少しここで滞留をしていただけるような、座って飲食ができる空間をたくさんつくるコンセプトで計画しています。

【女性】 椿の湯の2階に和室があるんですけど、高齢化が進みまして畳で使うことがあまりないので、できればこういう会議室というか洋室にしたいら私たち女性や足の悪い人が助かるなと思います。今度、椿の湯を改修しますよね、そのときにそういう計画はないのですか。

【道後温泉活性化担当課長】 今、まさに新しい椿の湯と古い椿の湯の改修計画を検討している最中です。そのご意見をぜひ反映するかたちで検討ができると思いますので、また協議させていただけたらと思います。

【市長】 今の松山市の特徴は、できるだけ市民の皆さん、利用者のニーズを聞くというのがスタンスだと思います。ですので、できるだけタウンミーティングを重ねていき、現地・現場を大切にしています。これからま

すます高齢化も進んでいきますので、どうかたちがいいのか、色々な声を集約してどういう施設にしたら一番喜んでもらえるのかを考えながらやっていきたいと思います。

【男性】 今、アーケード改修の提案がありましたが、アーケードとかカラー舗装については道後商店街振興組合が責任をもってやる場所です。我々も新しい椿の湯、道後温泉本館、道後温泉駅を結ぶ一番大事なところになりますので、そのあたりの衣裳替えも少し考えていますので、松山市さんでどうのご支援策があるか、そして近隣でカラー舗装を改修したらこんな効果があったという事例があればお教えいただきたいと思います。

【地域経済課長】 産業経済部副部長の中島です。商店街さんがやられる事業については、環境整備のための補助事業を用意させていただいています。補助対象としてはカラー舗装とかアーケードや防犯カメラも対象になりまして、補助対象経費は3分の1以内になっています。あわせて、これはタイミングがありますが国にもそういう支援事業がございます。確認している内容では、平成28年2～3月頃にかけて募集要項が出るということですので、うまくタイミングが合えば国と市の補助事業を合わせると、ほぼ補助金での対応が可能になるというメニューになっています。ただ、どうしても一定期間、先に資金を確保する必要があり、補助金は後から交付されますので、銀行融資とか利子補給あるいは消費税分が対象外になりますので、そういう部分の確保をする必要があります。もう1つ、近隣の商店街での実績ですが、平成21年に中央商店街の銀天街が実施してまして、ここは昭和41年に整備されて40年以上その状態でしたので、老朽化が激しかったということで実施しています。そのときの効果ですが、やはりきれいになりますので来街者の方に快適な公共空間を提供することで楽しんでいただいたり、それによって活性化が図れたり賑わいづくりができるという良い影響はもちろん出ていると考えています。

【市長】 どうぞ市役所といいお付き合いをしてくださいと申し上げたいのですが、例えば皆さんがこうしたいなというときに相談してくださったら「それだったらこういうサポートの仕方があるんですよ、こういう補助金とかサポートするやり方があるんですよ」とお伝えすることもできます。もし、そのやり方ができなかつたとしても「そのやり方はできませんけど、こういうやり方ならできますよ」とお伝えすることもできるので、どうぞ市役所に言っても変わらないではなくて、言っていたらお伝えすることもできます。市役所は、3つの漢字です。市・役・所、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でないといけないと思っていますので、どうぞ

遠慮なく相談をしていただけたらと思います。

【男性】 先ほどから道後も滞在型にならないといけないという中で、ご存知だと思ふんですけど商店街が30年ぐらい「道後村めぐり」を続けています。私がよくわかってないのかもしれないですけど、市からも少し応援いただいて、30カ所以上を距離で30～40キロメートルぐらい回って、今、自転車という1つの話が出てきているので自転車を使って回るとか、そういうものにもう少し力を入れることができないかということです。それともう1件、商店街の理事会で話が出たことがあるんですけど浴衣の件です。特に今、高校生が修学旅行で来ていますよね。その子らは修学旅行で来ているけど、あと5年、10年後に道後に来たときに、修学旅行に来て浴衣を着て商店街を歩いたという思い出があると、また行ってみるとい話になるのじゃないかと思ふますので、浴衣ということになるとホテルに協力してもらわないといけないですけど、市も協力して修学旅行に来た生徒たちに浴衣を着せて外に出すということをプッシュしていただければなと思ふます。

【市長】 実は3～4年前ぐらいだったか「道後村めぐり」をやりたいなと思ふて言ったことがあるんですけど、皆さんご賛同いただけるならより高めていきたいんですよ。これからますます高齢化社会になっていきますけど、歩いていただくことがすごく大事なことです。歩いていただけたらそのまちの良さも感じてもらえますし、私も小学校のときぐらいにスタートしたんでしょうか、組合の2階に上がって行って手帳をいただいたりとか、前の仕事のときもお世話になったことがあります。瀬戸風峠もスタンプがあって、道後村めぐりの場所に入っていたと思ふます。歩くことにつながっていきますよね、そして健康につながっていく事業なんですよ。松山の良さを知ってもらえる、歴史も知ってもらえる、愛着も持ってもらえる、健康にもつながっていく事業なので、できたら皆さんと一緒にやっていきたいんです。松山市と組合さんがうまく協働歩調でやっていかないとできないので、私としては皆さんと一緒にやっていきたいなと。健康、また、まちの魅力を感じてもらおう面でもやっていきたいなと思ふています。

【産業経済部瀬戸内・松山観光戦略推進官】 修学旅行生に対しまして、商店街の皆さまから温かいお声掛けをいただいて高校生たちにも先生にも非常に好評をいただいています。改めまして感謝を申し上げたいと思ふます。浴衣のお話ですけども、道後温泉で商店街を浴衣でそぞろ歩く風情は何物にも代えがたいものだと思います。高校生たちも浴衣を着て歩くということで、また違った思い出ができるのではないかと思ふますので検

討してまいりたいと思います。高校生に限らず、浴衣あるいは冬だと着物もいいと思いますし、そういったそぞろ歩く風情をこれから私どもとしてもつくり出していきたいという気持ちがございますので、これから一緒にご相談させていただければと思います。

【市長】 昔のことを聞きますと「松山へ修学旅行に来てくださいよ」と言ったら、大手旅行会社の方は「え、松山、何があるんですか」と最初はばかにされたそうです。でも、皆さんと一緒に頑張ってきて、62校、約1万人の修学旅行生が松山に来てくれるようになっていきます。2つ、土、日、祝日にお客さんが増えるのは当たり前。じゃあ平日どうするか、修学旅行生は平日の団体客さんだという視点。平日のお客さんを補完してくれる、団体として補完してくれるありがたいお客さんです。そして修学旅行は将来の旅人口をつくる。将来大きくなって「修学旅行で行った松山よかったね、今度みんなで行ってみようか」と将来の旅人口をつくるのが修学旅行生です。そして、松山は「おもてなし日本一のまち宣言」をやっていますけども、松山に良い印象を持ってもらったら2度、3度来てもらえる。でも、松山に行ったらすごい人が冷たかった、もうあんなところ2度と行かないと思われたら、経済効果はゼロどころか悪い評判は広がりますからマイナスの経済効果を生んでしまいます。ですから「おもてなし日本一のまち宣言」をして、おもてなし頑張りましょうと商工会議所さんと一緒にさせていただきました。良いおもてなしをすると将来の旅人口につながっていくものですので、そういう宣言をさせていただいたのですけれども、こちらもよろしく願います。

【男性】 2つあるんですけれども、1つは道後温泉の特に本館ですけど、ゴールデンウィークとか連休とか観光客がたくさん来たときにすごくごった返して芋洗い状態になってしまっていて、行列で心象を悪くしてしまう観光客の方も結構今までいらっしゃったので、その対策がどうあるのかということ。もう1つは道後商店街振興組合の運営について、年に何度もお祭りもありますし色々な活動で一生懸命頑張っているのですが、事務所も構えてやっているのに経済的になかなか厳しい状況もありまして、その対策の1つとしてアーケード内の統一看板というお店の看板の理由です。その看板の下に今は雰囲気の出るポスターとか、あるいは例えば大河ドラマの宣伝とかそういったものはいろいろとあるんですけども、そこに経済効果のある収入源になるような広告に近いものを貼ることは今、どうも禁止されているようですが、それを認可していただける特例があるということで大街道さんとかもそれに入っているらしいんですけども、そういった

ことは可能でしょうか。

【市長】 2ついただきました。まず、システムを今回入れさせていただきました。ご存知の方も多いのではないかなと思いますが、道後温泉本館に並ばれるので、民間のシステムを利用して、受付をして順番が来たら順番が来ましたよというのを携帯電話でお伝えするシステムを導入させていただきました。そうすることによって、ただ本館前で並ばれているのだったら時間がもったいないので、その間に商店街で買い物をしてもらったりということで民間のシステムを導入させていただきました。そして振興組合さんが広告をという話でしたが。

【都市デザイン課長】 都市デザイン課です。基本的には広告物を出す場合は屋外広告物の法律や道路法に準じなければならないことになっていますが、先ほどありましたように大街道商店街等は市と商店街が協定を結んで特区的な特別にできるようになっていますので、地元がまとまって松山市とそういう協定を結ぼうということになりましたらご相談には乗るかと思しますので、具体的なことは都市デザイン課窓口にご相談願えらと思ひます。

【男性】 先ほど言われていたのですが、修学旅行生の誘致と僕がもう1つ伝えたいのがコンベンションです。団体さんがコンベンションをするときに何百人という人が道後で会合があったりとか、この前もひめぎんホールさんとかで団体さんが何百人とか入ってくれたりして、そのおかげで道後を知ってもらったり松山を知ってもらったり、それが派生して愛媛を知ってもらって、さらにそのお客さんがまたファンになって来てくれているという状態になっているので、そういうのを頭に入れてもらって考えていただければと思ひます。あともう1点は、道後温泉の周りに自動車のフリンジ型パーキングをつくるのもいいんですけど、あと観光バスとかの停留所とかも考えてつくっていただければ、日帰りのお客さんたちも散策してもらえ時間が増えると思ひるので、それも企画していただければと思ひます。以上です。

【市長】 コンベンションは私から言わせてもらおうとして、観光バスのパーキングのことについては。

【道後温泉活性化担当課長】 観光バスにつきましても、各ホテルさんで観光バスが宿泊客を中心に止まっています。平日も観光バス業者さんによってはホテルを使わせていただいたりということがあつたみたいです。先ほど言つたようなフリンジ型の駐車場において、道後はやはり団体客もありますので、マイカーだけではなくバスの駐車も十分考えて検討していき

いと思っています。

【市長】 コンベンションのことですが安心してください。指示を出します。今のところですが、平成29年の国体の後に耐震化に踏み切るかということになっていますが、工期のこと、どのような工事にすると検討中です。できるだけ地域経済への影響が少なくなるように考えていきます。できるだけお客さん呼び込むために松山市と松山市観光コンベンション協会がありますが、観光で来ていただいても会議などで来ていただいても同じですよ。皆さんも覚えておいてください。皆さんの近くにある子規記念博物館の4階の講堂は5百人は入れます。松山はうまくできています。5百、千、2千、3千となっていて、コミュニティセンターのキャメリアホールは千人入れます。市民会館の大ホールは2千人入れます。ひめぎんホールのメインホールは3千人入れます。5百、千、2千、3千とうまいことできているのです。ですので、そういう会議ができるし、泊まったときに温泉があるのとないのとではまた違います。その辺はコンベンションに適したところだと思います。平成25年～30年でどういうコンベンションが行われるのか、どれくらい的人数が想定できるのか、やみくもに行ってもいけないですから、どこにセールスに行くのかというのをやっております。今度、神戸で国内最大の国際宇宙会議が行われるのですが、これを誘致にあって1回目はだめだったんですが2回目に誘致できました。今度、松山で行われます。できる限り効果のあるコンベンションを誘致していきたいと思っています。また、ありがたかったのですが、知事が市長時代に「坂の上の雲」のまちづくりをやってこられて、ちょうど節目がこれからやってきます。例えば、平成29年は正岡子規さんと漱石さんは大親友ですが、この2人が同い年で生誕150年を迎え、ちょうどこの年に俳句甲子園は20回を迎え、坂の上の雲ミュージアムは開館10年を迎えます。平成29年の国体の後、平成30年は明治維新から150年という年を迎えますし、26年・27年・28年・29年・30年と「坂の上の雲」ゆかりの節目の年が必ず続いていくんです。これはありがたかったと思います。こういう節目を生かしながらやっていきたいと思っていますし、椿の湯のリニューアルのことについて皆さんご存知だと思いますが、もう1回おさらいしておきます。椿の湯の別館は日本最古の湯を再現することをコンセプトにしている。今まで古いものといったら何があったかということ、明治27年の道後温泉本館が古い。聖徳太子の碑文がありますが、あれはレプリカです。日本最古というものを表すものがなかなかないのですかということ、聖徳太子来湯の碑文や斉明天皇、天智天皇が来られた物語があるので、飛鳥時代の湯屋を再現して明治時代の道後温泉本

館と対比させて、2つのお風呂が楽しめる話題性に富んだ道後温泉として国の内外に魅力を発信していきたいと思っています。外観ですが、屋根瓦は日本瓦の本葺、屋根の上の棟飾りには飛鳥時代の象徴ともいえる金の鯨（しゃちほこ）のような鴟尾（しび）を両側に配置している。そして、飛鳥時代に建てられた法隆寺の夢殿をイメージした塔屋をシンボリックに載せている。飛鳥時代の特徴である複数の建物を回廊で囲む伽藍（がらん）配置を取り入れる。中庭を中心に既存の椿の湯と新しい施設を回廊でつなぐことによって連動性と存在感を持たせる。中は道後温泉本館の接待を受け継いで、応接員による入浴券の販売や休憩室での湯上りのお茶のサービスに加えてコンシェルジュによる施設の案内など、人と人とが触れ合えるさまざまなおもてなしを考えています。2階には観光客に人気の高い畳敷きの休憩室を設けまして、和の空間でゆっくりと寛ぎながら中庭の眺めを楽しんでいただきたいと思います。浴室は1階に男の人50人、女の人50人定員の浴槽と、2階には特別な浴室として本館にあります皇室専用のお風呂「又新殿」を忠実に再現した浴室を設けています。皇室専用のお風呂でしたから普通の方は入れないですよ。ですので、こちらでは又新殿を忠実に再現した浴室を設けまして、湯帳を着て古代の入浴が体験できるほか、こうすることで肌を見せたくない外国人観光客の方も入浴できる浴槽を設けることにしています。松山らしい湯帳にできないかと今いろいろと動いているところですが、女性で手術をされて体にメスの跡がある、お風呂には入りたいんだけど入ることができないという方も湯帳を着たら入浴ができると思います。そういったことも考えて、飛鳥時代は素っ裸で入るのではなくて、こういうかたちで入っていたのではないかなということです。あと、私からのお知らせですが浸水対策です。商店街の皆さんは覚えていらっしゃるかもしれませんが、3年前の8月19日、ちょうど俳句甲子園の決勝をやっていたときでした。松山中央气象台の観測史上最大となる10分間で24ミリの雨、1時間に直すと144ミリの記録的な雨が降りまして浸水被害が発生しました。当日お知らせを受けてお見舞いに来させていただきましたが、対策をしています。上流の石手川から地区内の水路に流れ込む水を迅速に遮断することが最も効果的ですので、突発的な降雨や夜間の大雨でも水位を感知しまして作動する自動遮断装置を岩堰橋付近にも設置をいたしまして、去年の5月に改善ができています。また、石手寺の前には豪雨のときに水路に流れ込んだ雨水を石手川に放流するバイパスの水路があるのですが、この水路の運用について再度調査検討を行いました。水位計を増やすことなどによって、より効率的に下流へ流れる雨水を減らすことができるため、今年度内の完成を目指して

改良工事を進めていきたいと考えています。3年前に来させていただいて、観光の拠点である道後にこのような浸水被害が起こるのだなと感じまして、早急に手を打たなくてはいけないということで、今、手を打っているところですので、こちらもご安心をしていただけたらと思います。もし、あとお一方いらっしゃるようだったら質問を受けたいと思います。

【女性】 先ほどコンベンションの話が出たんですけど、そういう大人数のものを持ってきていただくことにすごく感謝をしています。ただ、来たお客様は道後に来て初めてお土産の商店街があるんだなと気づいてくださるんですけど、来たときには必ず「もうみんな会場で送ってしまった」と言うんですよ。結局、もうここに来たときには買うものがない。会場ですべて済ましてしまったということになるので、お客様にたくさん歩いていただいても、大体がもう商店街にお金を落としていただく余力がない状態です。

【市長】 ごめんなさい。会場で済んでしまったとはどういうことですか。

【女性】 もう会場で業者が入って売っているので、そちらで地方発送をしてしまったと皆さん言われるんですよ。地方発送してしまったというからには、たくさん量を買っているのだと思うんです。それをそこで終わらすのじゃなく、商店街で買っていただけるような何かをつくっていただきたい。せつかく人が来て、こちら準備して期待して待っているのに、いつも「あーっ」という感じのことがここ何年かは多いので、そういうことがあるならなるべくこの道後商店街でお金を落としていただけるような何かをつくっていただきたいなと切実に思います。そうしたら、その本館の工事中でも何かがあるときはお客さんが来られる、じゃあこのときに頑張ればいいという予定も組めるし、本館に頼っているところもありますが、本館じゃなくても会議とかがあればお客さんは来るという安心感をこちらも持てるので、色んな理由があって会場でも売るんだらうけど、会場で済ませるのじゃなく、道後に来ていただいて道後商店街で何か買っていただけるようなシステムをつくっていただけたらすごく助かります。

【産業経済部瀬戸内・松山観光戦略推進官】 おっしゃるようにコンベンションでたくさん呼んできたときに、どうしても観光コンベンション協会が受注した場合には会員さんが業者さんということもあるので、そのあたりもあるんですけども、おっしゃることは十分わかりますので、日程が何日かある中でタイミングもあると思いますので、何か方法がないのかコンベンション協会などと検討してみたいと思います。

【市長】 持ち帰らせていただいて、検討させていただけたらと思います。

やり方はあると思います。締めの話に持っていかせていただいたらと思います。今のお話がすごく象徴的だと思います。やはり現地現場に出ないとわからないことがあるんですね。市役所に閉じこもっているのじゃなくて現地現場に出ましょう。皆さんから話を聞かせていただくことによって、実はこうなっているということで皆さんの声を反映していくことが大事だし、やりようはあると思うんですよ。今日皆さんからお声をいただきましたが、事情があつてうつむくのじゃなくて、ここをみんなで踏ん張って頑張っていきたいし前向きにやっているとアイデアも出て連携するとパワーも生まれると思います。皆さんと一緒にこれから次の世代に残せる道後を築いていきたいと思いますので、どうかこれからもよろしくお願いします。今日は本当に皆さんと色んな意見交換ができて大変うれしく思います。

【男性】 今日はどうもありがとうございました。60道後商店街事業者の総意を申し上げます。道後商店街振興組合の懐事情でございますが、アーケード使用料という町内会費と、この椿の湯の業務委託で持っております。地域の振興と活性化のために椿の湯の業務委託を引き続きしっかりと管理いたしますので、ご継続をいただきたくお願い申し上げます。以上です。

— 了 —